



# Cisco Secure Network Analytics

ISE および ISE-PIC コンフィギュレーション ガイド 7.5.0



---

# 目次

はじめに .....	4
概要 .....	4
技術的な詳細情報 .....	4
証明書要件 .....	4
設定のテスト .....	5
<b>証明書の展開 .....</b>	<b>6</b>
<b>オプション 1: ISE 内部認証局を使用した証明書の展開 (推奨) .....</b>	<b>6</b>
Secure Network Analytics pxGrid クライアント証明書の生成 .....	6
Central Management からクライアント証明書の CSR を生成 .....	6
ISE の内部 CA を使用した証明書の CSR の作成 .....	6
Central Management へのクライアントアイデンティティ証明書の追加 .....	7
Secure Network Analytics 信頼ストアへの ISE Sub-CA 証明書の追加 .....	8
<b>オプション 2: 外部認証局 (CA) サーバーを使用した証明書の展開 .....</b>	<b>8</b>
Secure Network Analytics pxGrid クライアント証明書の生成 .....	8
Secure Network Analytics pxGrid クライアント証明書の CSR の生成 .....	8
外部 CA を使用した Secure Network Analytics pxGrid クライアント証明書の作成 .....	9
Manager への Secure Network Analytics pxGrid クライアント証明書の追加 .....	9
Manager 信頼ストアへの CA ルート証明書のインポート .....	9
ISE サーバー pxGrid 証明書の生成 .....	10
ISE サーバー pxGrid 証明書の CSR の生成 .....	10
外部 CA を使用した ISE サーバー pxGrid 証明書の作成 .....	10
ISE 信頼ストアへの CA ルート証明書のインポート .....	10
証明書署名要求 (CSR) への ISE 証明書のバインド .....	11
<b>ISE 設定の追加 .....</b>	<b>12</b>
ISE 設定のセットアップページを開く .....	12
設定 .....	12
統合オプション .....	13
その他のパラメータ .....	14
ノードステータスインジケータ .....	14
更新アイコン .....	14
ISE または ISE-PIC での pxGrid の承認 .....	14
ISE の設定ページの更新 .....	14
ISE の設定の確認 .....	14

---

保存した ISE クラスターの編集または削除 .....	15
ISE 統合フェールオーバーの設定 .....	16
拡張 ISE の展開をサポートするための Secure Network Analytics 設定の調整 .....	17
サポートへの問い合わせ .....	18
変更履歴 .....	19

---

# はじめに

## 概要

このドキュメントでは、Cisco ISE (Identity Services Engine) で Cisco Secure Network Analytics (旧 Stealthwatch) を展開するシスコのエンジニアとお客様に、ISE pxGrid に Secure Network Analytics v7.5.0 を接続するために必要な設定ワークフローの変更点を示します。

## 技術的な詳細情報

Secure Network Analytics と ISE を接続するには、証明書を適切に展開して 2 つのシステム間で信頼できる通信を確立する必要があります。証明書の展開では、さまざまな製品やアプリケーションのインターフェイス (Web アプリケーション、Central Management インターフェイス、ISE サーバー管理ポータル) を使用する必要があります。開始する前に導入の流れを確認し、要件と手順をしっかりと理解してください。

## 証明書の要件

Secure Network Analytics は、ISE pxGrid ノードに接続するためのクライアント証明書をインポートします。クライアントアイデンティティ証明書については、次のガイドラインに従ってください。

- **Central Management で CSR を生成**: Central Management で CSR を生成する場合、記載された要件で (\*) が付けられた項目が CSR に含まれます (「Central Management で CSR を生成」の列を参照)。
- **Central Management で CSR をスキップ**: Central Management 以外で CSR を生成する場合、生成した CSR がこの表に記載された要件を満たしていることを確認してください (「Central Management で CSR をスキップ」の列を参照)。
- **証明書要件の確認**: Central Management で CSR を生成するか、CSR をスキップするかにかかわらず、証明書を Manager に追加する前に、この表の要件を満たしていることを確認してください。

要件	CSR の作成 (Central Management で操作)	CSR のスキップ (Central Management で操作)
ファイル形式 *	PEM (.cer、.crt、.pem) または PKCS#12 (.p12、.pfx、.pks)	PKCS#12 (p12、.pfx、.pks)
キー *	使用可能な RSA キーの長さ: 2048 ビット (非推奨)、4096 ビット、ま たは 8192 ビット  ECDSA カーブ: 使用不可	必要な RSA キーの長さ: 2048 ビット (非推奨) 以上  または  必要な ECDSA キーカーブ: NIST P-256、P-384、または P-521
署名者	クライアントアイデンティティ証明書 は、自己署名するか、認証局 (CA) の 署名を受けることができます。	クライアントアイデンティティ証明書 は、自己署名するか、認証局 (CA) の 署名を受けることができます。
認証 (拡張キーの使 用状況) *	CSR 要求クライアント (clientAuth) の 認証。	クライアントアイデンティティ証明書に は、クライアント (clientAuth) 認証が必 要です。
日付の範囲	証明書の日付が最新であり、期限が 切れていないことを確認します。	証明書の日付が最新であり、期限が 切れていないことを確認します。

\* Central Management で CSR を生成する場合、記載されている要件で (\*) が付いている項目が CSR に含まれます。

## 設定のテスト

証明書を展開したら、ISE のトラブルシューティングに関する TechNotes 記事 (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/docs/security/identity-services-engine/217511-troubleshoot-sna-ise-integration-conn.html>) を参照して、ISE と Secure Network Analytics の統合が正しく設定されていることを確認してください。

v7.5.0 に更新した後、Cisco Secure Network Analytics で ISE 管理チャンネルがダウンしている場合は、ISE を再起動して設定を確認します。次に、Cisco Secure Network Analytics で [ISE の設定 (ISE Configuration)] ページを更新します。詳細については、「[ISE の設定ページの更新](#)」を参照してください。

# 証明書 の 展開

## オプション 1: ISE 内部認証局を使用した証明書の展開 (推奨)

証明書の導入には、ISE 内部認証局 (CA) を使用する方法をお勧めします。この方法を実施するには、以下の手順を使用します。

### Secure Network Analytics pxGrid クライアント証明書の生成

#### Central Management からクライアント証明書の CSR を生成



Central Management インターフェイス以外で CSR を生成する場合は、このセクションをスキップして「[ISE の内部 CA を使用した証明書の CSR の作成](#)」に進みます。手順を開始する前に、CSR が「[証明書の要件](#)」に示されている要件を満たしていることを確認してください。

1. Manager (旧 Stealthwatch Management Console) にログインします。
2. メインメニューから [構成 (Configure)] > [グローバル集中管理 (GLOBAL Central Management)] を選択します。
3. [インベントリ (Inventory)] ページで、ISE に接続する Manager の … (省略符号) アイコンをクリックします。
4. [アプライアンス構成の編集 (Edit Appliance Configuration)] を選択します。
5. [アプライアンス (Appliance)] タブの [追加の SSL/TLS クライアントアイデンティティ (Additional SSL/TLS Client Identities)] セクションに移動します。
6. [新規追加 (Add New)] をクリックします。
7. CSR (証明書署名要求) を生成する必要がある場合は、[はい (Yes)] を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
8. [RSA キー長 (RSA Key Length)] を選択し、[CSR の生成 (Generate a CSR)] セクションの残りのフィールドを入力します。
9. [CSR の作成 (Generate CSR)] をクリックします。生成プロセスは数分かかることがあります。
10. [CSR のダウンロード (Download CSR)] をクリックし、CSR ファイルをコンピュータに保存します。

#### ISE の内部 CA を使用した証明書の CSR の作成

1. ISE 管理インターフェイスにログインします。
2. [管理 (Administration)] > [pxGrid サービス (pxGrid Services)] > [クライアント管理 (Client Management)] > [証明書 (Certificates)] の順に選択します。[pxGrid 証明書の生成 (Generate pxGrid Certificates)] フォームが開きます。



パスは ISE-PIC とは異なる場合があります。

3. [処理の選択 (I want to)] フィールドで、[単一の証明書の生成 (証明書署名要求あり) (Generate a single certificate (with certificate signing request))] を選択します。
4. CSR をテキストエディタで開き、[証明書署名要求の詳細 (Certificate Signing Request Details)] フィールドにファイルの内容をコピーします。

5. 必要に応じて、説明を入力します。
6. [証明書のダウンロード形式 (Certificate Download Format)] フィールドで、[PKCS12形式 (証明書チェーンを含む。証明書チェーンとキーの両方で1つのファイル) (PKCS12 format (including certificate chain; one file for both the certificate chain and key))] を選択します。
7. [証明書パスワード (Certificate Password)] および [パスワードの確認 (Confirm password)] フィールドにパスワードを入力します。このパスワードは、[追加のSSL/TLSクライアントID (Additional SSL/TLS Client Identities)] セクションで証明書を集中管理インターフェイスにアップロードするときに要求されます。
8. [作成 (Create)] をクリックします。

**i** 証明書の生成に失敗した場合は、pxGrid\_Certificate\_Template のキー長が、Secure Network Analytics で作成した CSR のキー長と一致していることを確認してください。PxGrid\_Certificate\_Template のキー長を編集するには、[証明書テンプレート (Certificate Template)] フィールドの横にあるリンクをクリックします。

9. 集中管理インターフェイスで CSR を生成しなかった場合は、PKCS12 ファイルを再パッケージ化して秘密キーを含めます。

### Central Management へのクライアントアイデンティティ証明書の追加

1. 上記の項で作成したファイルを解凍して PKCS12 ファイルにアクセスします。

**i** このファイルをダウンロードするため、ポップアップメニューをブロック解除することが必要になる場合があります。

2. Central Management で [Manager設定 (Manager Configuration)] の [追加のSSL/TLSクライアントアイデンティティ (Additional SSL/TLS Client Identities)] セクションに移動します。
3. Central Management で CSR を生成した場合、[追加のSSL/TLSクライアントアイデンティティ (Additional SSL/TLS Client Identities)] セクションには、作成したクライアント証明書をインポートするためのフォームが含まれます。

Central Management で CSR をスキップした場合は、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

- 「CSRを生成する必要がありますか。(Do you need to generate a CSR?)」のメッセージに対して、[いいえ (No)] を選択します。
  - [次へ (Next)] をクリックします。
4. 証明書のフレンドリ名を指定し、[ファイルの選択 (Choose File)] をクリックして証明書ファイルを探します。
  5. 前のセクションで入力したパスワードを入力します。
  6. [クライアントアイデンティティの追加 (Add Client Identity)] をクリックしてシステムに証明書を追加します。
  7. [設定を適用 (Apply Settings)] をクリックして変更を保存します。

## Secure Network Analytics 信頼ストアへの ISE Sub-CA 証明書の追加

1. ISE 管理インターフェイスにログインします。
2. [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] に移動して、[認証局証明書 (Certificate Authority Certificates)] をクリックします。
3. 証明書サービスエンドポイントサブ CA の証明書を見つけてコンピュータにエクスポートします。

**i** ISE Sub-CA 証明書が ISE pxGrid ノードで使用される証明書を発行した認証局のものではない場合は、この手順でその CA 証明書を取得する必要があります。

4. Manager にログインします。
5. メインメニューから [構成 (Configure)] > [グローバル集中管理 (GLOBAL Central Management)] を選択します。
6. [インベントリ (Inventory)] ページで、Manager の … (省略符号) アイコンをクリックします。
7. [アプライアンス構成の編集 (Edit Appliance Configuration)] を選択します。
8. [全般 (General)] タブを選択します。
9. [信頼ストア (Trust Store)] セクションに移動し、エクスポート済みの ISE CA 証明書をインポートします。
10. [新規追加 (Add New)] をクリックします。
11. 証明書のフレンドリ名を指定して [ファイルの選択 (Choose File)] をクリックし、エクスポート済みの ISE CA 証明書を選択します。
12. [証明書の追加 (Add Certificate)] をクリックして変更を保存します。

これで証明書が展開され、2 つのシステム (Secure Network Analytics と ISE) は相互に信頼するようになります。ISE pxGrid ノードへの接続を設定するには、「[ISE 設定の追加](#)」の章に進みます。

## オプション 2: 外部認証局 (CA) サーバーを使用した証明書の展開

### Secure Network Analytics pxGrid クライアント証明書の生成

#### Secure Network Analytics pxGrid クライアント証明書の CSR の生成

1. Manager にログインします。
2. メインメニューから [構成 (Configure)] > [グローバル集中管理 (GLOBAL Central Management)] を選択します。
3. [インベントリ (Inventory)] ページで、ISE に接続する Manager の … (省略符号) アイコンをクリックします。
4. [アプライアンス構成の編集 (Edit Appliance Configuration)] を選択します。
5. [アプライアンス (Appliance)] タブの [追加の SSL/TLS クライアントアイデンティティ (Additional SSL/TLS Client Identities)] セクションに移動します。
6. [新規追加 (Add New)] をクリックします。
7. CSR (証明書署名要求) を生成する必要がある場合は、[はい (Yes)] を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

8. [RSA キー長 (RSA Key Length)] を選択し、[CSR の生成 (Generate a CSR)] セクションの残りのフィールドを入力します。
9. [CSR の作成 (Generate CSR)] をクリックします。生成プロセスは数分かかることがあります。
10. [CSR のダウンロード (Download CSR)] をクリックし、CSR ファイルをローカルに保存します。

## 外部 CA を使用した Secure Network Analytics pxGrid クライアント証明書の作成

 この例では、MS Server 2012 の Microsoft Active Directory 証明書サービスを使用します。別の外部 CA も使用できます。

1. Microsoft Active Directory 証明書サービス (<https://server/certsrv/>) に移動します。ここで、server は MS サーバの IP または DNS です。
2. [証明書を要求する (Request a certificate)] をクリックします。
3. [高度な証明書要求 (Advanced certificate request)] の送信を選択します。
4. 前のセクションで生成した CSR ファイルの内容を [保存された要求 (Saved Request)] フィールドにコピーします。
5. [証明書テンプレート (Certificate Template)] で [pxGrid] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
6. 生成された証明書を **Base-64** 形式でダウンロードし、**pxGrid\_client.cer** として保存します。

## Manager への Secure Network Analytics pxGrid クライアント証明書の追加

1. Central Management で [Manager 設定 (Manager Configuration)] の [追加の SSL/TLS クライアントアイデンティティ (Additional SSL/TLS Client Identities)] セクションに移動します。
2. [追加の SSL/TLS クライアントアイデンティティ (Additional SSL/TLS Client Identities)] セクションには、作成したクライアント証明書をインポートするフォームが含まれています。
3. 証明書のフレンドリ名を指定し、[ファイルの選択 (Choose File)] をクリックして証明書ファイルを探します。
4. 前のセクションで入力したパスワードを入力します。
5. [クライアントアイデンティティの追加 (Add Client Identity)] をクリックしてシステムに証明書を追加します。
6. [設定を適用 (Apply Settings)] をクリックして変更を保存します。

## Manager 信頼ストアへの CA ルート証明書のインポート

1. Microsoft Active Directory 証明書サービスのホームページにアクセスし、[CA 証明書、証明書チェーン、または CRL のダウンロード (Download a CA certificate, certificate chain, or CRL)] を選択します。
2. [Base-64] 形式を選択して [CA 証明書のダウンロード (Download CA certificate)] をクリックします。
3. 証明書を **CA\_Root.cer** として保存します。
4. Manager にログインします。
5. メインメニューから [構成 (Configure)] > [グローバル集中管理 (GLOBAL Central Management)] を選択します。
6. [インベントリ (Inventory)] ページで、Manager の **...** (省略符号) アイコンをクリックします。

7. [アプライアンス構成の編集 (Edit Appliance Configuration)] を選択します。
8. [全般 (General)] タブを選択します。
9. [信頼ストア (Trust Store)] セクションに移動し、エクスポート済みの CA\_Root.cer 証明書をインポートします。
10. [新規追加 (Add New)] をクリックします。
11. 証明書のフレンドリ名を指定して [ファイルの選択 (Choose File)] をクリックし、エクスポート済みの ISE CA 証明書を選択します。
12. [証明書の追加 (Add Certificate)] をクリックして変更を保存します。

## ISE サーバー pxGrid 証明書の生成

### ISE サーバー pxGrid 証明書の CSR の生成

1. ISE 管理インターフェイスを開きます。
2. [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] > [証明書署名要求 (Certificate Signing Requests)] に移動します。
3. [証明書署名要求 (CSR) の作成 (Generate Certificate Signing Request (CSR))] を選択します。
4. [証明書の用途 (Certificate(s) will be used for)] フィールドで [pxGrid] を選択します。
5. 証明書を生成する ISE ノードを選択します。
6. 必要に応じて、その他の証明書の詳細を入力します。
7. [生成 (Generate)] をクリックします。
8. [エクスポート (Export)] をクリックして、ファイルをローカルに保存します。

### 外部 CA を使用した ISE サーバー pxGrid 証明書の作成

1. Microsoft Active Directory 証明書サービス (<https://server/certsrv/>) に移動します。ここで、server は MS サーバの IP または DNS です。
2. [証明書を要求する (Request a certificate)] をクリックします。
3. [高度な証明書要求 (Advanced certificate request)] の送信を選択します。
4. 前のセクションで生成した CSR の内容を [保存された要求 (Saved Request)] フィールドにコピーします。
5. [証明書テンプレート (Certificate Template)] で [pxGrid] を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
6. 生成された証明書を Base-64 形式でダウンロードし、ISE\_pxGrid.cer として保存します。

### ISE 信頼ストアへの CA ルート証明書のインポート

1. Microsoft Active Directory 証明書サービスのホームページにアクセスし、[CA 証明書、証明書チェーン、または CRL のダウンロード (Download a CA certificate, certificate chain, or CRL)] を選択します。
2. [Base-64] 形式を選択して [CA 証明書のダウンロード (Download CA certificate)] をクリックします。
3. 証明書を CA\_Root.cer として保存します。

4. ISE 管理インターフェイスにログインします。
5. [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] > [信頼証明書 (Trusted Certificates)] の順に選択します。
6. [インポート (Import)] > [証明書ファイル (Certificate file)] の順に選択し、ルート証明書をインポートします。
7. [ISE内の認証用に信頼する (Trust for authentication within ISE)] チェックボックスを必ずオンにします。
8. [送信 (Submit)] をクリックします。

### 証明書署名要求 (CSR) への ISE 証明書のバインド

1. ISE 管理インターフェイスにログインします。
2. [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] > [証明書署名要求 (Certificate Signing Requests)] の順に選択します。
3. 前のセクションで生成した CSR を選択し、[証明書のバインド (Bind Certificate)] をクリックします。
4. [CA 署名付き証明書のバインド (Bind CA Signed Certificate)] フォームで、生成済みの ISE\_pxGrid.cer 証明書を選択します。
5. 証明書のフレンドリ名を指定して [送信 (Submit)] をクリックします。
6. 再起動を求められたら [はい (Yes)] をクリックします。
7. 証明書の交換を求められたら [はい (Yes)] をクリックします。
8. [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [証明書 (Certificates)] > [システム証明書 (System Certificates)] の順に選択します。
9. 外部 CA によって署名された作成済みの pxGrid 証明書がリストに表示されます。

これで証明書が展開され、2つのシステム (Secure Network Analytics と ISE) は相互に信頼するようになります。ISE pxGrid ノードへの接続を設定するには、「[ISE 設定の追加](#)」の章に進みます。

## ISE 設定の追加

現在のドメインに ISE クラスタを設定するには、次の手順を実行します。



- ISE クラスタは、使用される Secure Network Analytics ドメインごとに設定する必要があります。
- 複数の独立した ISE クラスタを Secure Network Analytics のドメインに追加できませんが、同じドメイン内のすべてのクラスタで同じ IP アドレスを使用することはできません。
- Manager と ISE がポート TCP/8910 および TCP/443 を介して通信できるように、ファイアウォールを設定する必要があります。pxGrid が有効になっていない場合でも、管理ノードと MNT ノードとともに、展開内のすべての pxGrid ノードに対して、Manager から ISE へのポート 8910 で通信を開く必要があります。
- ANC および Trustsec ワークフローの管理ノードと MNT ノードとの通信が確立されていること、および Manager がセッション情報を使用できることを確認します。

### ISE 設定のセットアップページを開く

1. [設定 (Configure)] > [Cisco ISEの統合 (INTEGRATIONS Cisco ISE)] の順に選択します。
2. ページの右上隅で、[新しい設定の追加 (Add New Configuration)] をクリックします。

### 設定

次の設定を定義します。

- [クラスタ名 (Cluster Name)]: この名前は、デスクトップ クライアントの企業ツリーと Manager Web UI の ISE 設定のリストに表示されます。
- [証明書 (Certificate)]: これは、Manager 設定インターフェイスの [追加の SSL/TLS クライアントアイデンティティ (Additional SSL/TLS Client Identities)] セクションにある [フレンドリ名 (Friendly Name)] フィールドに入力した名前と同じです。この証明書により、アプライアンスはアイデンティティをクライアントとして認証できます (つまり Manager が ISE に提供するクライアント証明書です)。
- [PxGrid ノード 1 (PxGrid Node 1)]: アプライアンスが統合されている ISE クラスタ上のプライマリ pxGrid ノードの IP アドレス、ホスト名、または FQDN。
- [PxGrid ノード 2 (オプション) (PxGrid Node 2 (optional))]: アプライアンスが統合されている ISE クラスタ上のセカンダリ pxGrid ノードの IP アドレス、ホスト名、または FQDN。このノードは、フェールオーバーのために使用されます。最初のノードへの接続が失敗すると、セカンダリノードが使用されます。
- [PxGrid ノード 3 (オプション) (PxGrid Node 3 (optional))]: アプライアンスが統合されている ISE クラスタ上のターシャリ pxGrid ノードの IP アドレス、ホスト名、または FQDN。このノードは、フェールオーバーのために使用されます。最初のノードとセカンダリノードへの接続が失敗すると、ターシャリノードが使用されます。
- [クライアント名 (Client Name)]: この一意の名前が ISE アプライアンスで ISE クラスタ上の pxGrid クライアントリストに表示されます。

- [厳密なISEサーバーID検証の有効化 (Enable Strict ISE Server Identity Verification)]: Manager が ISE クラスタノードと通信するときにサーバー ID 検証を要求するには、この設定を有効にします。他のセキュリティチェックに加えて、ISE ノード ID 証明書が次のいずれかを満たす場合は、通信が許可されます。
  - これには、証明書の共通名やサブジェクト代替名としてリストされているノード名または ID 情報 (FQDN など) が含まれます。
  - Manager の信頼ストア内の証明書と一致します。



- ISE 統合が設定されている v7.4 より前のリリースからアップグレードする場合、[厳密なISEサーバーID検証の有効化 (Enable Strict ISE Server Identity Verification)] オプションはデフォルトでオフになっています。このオプションは、v7.4 以降の ISE 統合の設定ではデフォルトでオンになっています。
- 選択した統合オプションを正常に連携および機能させるには、Manager が ISE サーバー (PAN、Mnt、SXP、pxGrid などの分散環境の場合はすべてのノード) の FQDN (完全修飾ドメイン名) を解決できるように、Manager の DNS 設定を行います。これらのノードによって提供されるサービスは動的に検出され、ノードの FQDN を使用して参照されます。

## 統合オプション

統合する ISE 製品を選択してください。

- [ISE]: すべての統合オプションを有効化できます。
- [ISE-PIC]: セッション更新のみを有効化できます。

ISE クラスタに対して有効にする統合オプションを選択します。

- [適応型ネットワーク制御 (Adaptive Network Control)]: ISE のエンドポイントに分類 (ANC ポリシー) を適用し、ISE に設定されている認証ポリシーに従ってネットワークアクセスを変更できます。
- [静的 TrustSec 分類 (Static TrustSec Classifications)]: 認証プロセス以外でエンドポイント IP と静的に関連付けられた TrustSec セキュリティグループタグ (SGT) に関する情報を受信できます。これは、ISE、アクセスレイヤデバイスに手動で設定された、または SXP プロセス内で他のシステムから学習した IP-to-SGT バインディングの可能性があり、このデータは、元のフローにエンドポイント IP アドレスが一致する SGT が存在せず、SGT が割り当てられたエンドポイント IP アドレスにセッションが関連付けられていないフローの拡大に使用されます。
- [セッション (Sessions)]: ユーザ名、エンドポイントの MAC アドレス、デバイスプロファイル、および TrustSec セキュリティグループに関する情報を含む、ユーザセッションの最新情報を受信できます。この情報は、TrustSec セキュリティグループ情報があるフローを拡大し、Manager レポート上のユーザーとセッションを監視するために使用されます。[マシン認証から導出されたセッションの追跡 (Track sessions derived from machine authentications)] を有効にして、ユーザセッションの最新情報と一緒にマシンセッションの最新情報も受信します。

## その他のパラメータ

### ノードステータス インジケータ

各 IP アドレスフィールドの横に配置されたノードステータスインジケータは、追加された各ノードの接続ステータスを示します。これらは、最初のノードの設定と保存後に表示されます。

- (緑色ステータス) アイコンは、ノードへの接続が確立されていること、およびシステムが pxGrid に関する必要なすべての情報トピックをサブスクライブしていることを示しています。
- (黄色ステータス) アイコンは、ノードとの接続が保留中かつ進行中か、または ISE の [pxGrid サービス (pxGrid Services)] ページでのクライアントの承認を待機中であることを示しています。
- (赤色ステータス) アイコンは、ノードへの接続が確立されていないこと、または pxGrid に関する必要な情報トピックのサブスクリプションに失敗したことを示しています。このアイコンをクリックすると、接続が存在しない理由、または失敗したサブスクリプションを示すエラーメッセージを確認できます。

### 更新アイコン

 (更新) アイコンをクリックすると、関連するクラスタとの接続が更新されます。

## ISE または ISE-PIC での pxGrid の承認

- 次のいずれかを実行します。
  - ISE を使用している場合は、このアプライアンスにログインし、メインメニューから [管理 (Administration)] をクリックします。開いたページで、[pxGrid サービス (pxGrid Services)] タブをクリックします。
  - ISE-PIC を使用している場合は、このアプライアンスにログインし、メインメニューで [サブスクライバ (Subscribers)] をクリックします。開いたページで、[クライアント (Clients)] タブをクリックします。
- 表示されたテーブルの [クライアント名 (Client Name)] 列で、該当するサブスクライバの名前の横にあるチェックボックスをオンにし、テーブルの上部にあるサブメニューで [承認 (Approve)] をクリックします。

## ISE の設定ページの更新

- Web アプリケーションの ISE の設定ページに戻り、ページを更新します。
- 該当する IP アドレスフィールドの横にあるノードのステータスインジケータが、ISE クラスタまたは ISE-PIC クラスタへの接続が確立されていることを示す緑色であることを確認します。

## ISE の設定の確認

ISE のトラブルシューティングに関する TechNotes 記事

(<https://www.cisco.com/c/en/us/support/docs/security/identity-services-engine/217511-troubleshoot-sna-ise-integration-conn.html>) を参照して、ISE と Secure Network Analytics の統合が正しく設定されていることを確認してください。

---

## 保存した ISE クラスタの編集または削除

[アクション (Actions)] 列で、省略記号をクリックしてサブメニューを開き、適切なオプションを選択します。

- Secure Network Analytics 上に存在している ISE クラスタから最後に残ったノードを削除することはできません。
- [ライセンス供与されていない機能 (Unlicensed Feature)] アラームが ISE クラスタに対してアクティブになっていても、すべての ISE クラスタを削除できます。それを行ってから数分以内にアラームが非アクティブになります。
- ISE クラスタを削除しても、履歴のために、クライアントユーザー名は ISE から削除されません。ユーザー名は、[pxGridユーザー名 (pxGrid Username)] リストの ISE ボックスに引き続き表示されます。

## ISE 統合フェールオーバーの設定

ISE 統合フェールオーバーでは、ISE セッションの最新情報を受信するようにプライマリおよびセカンダリ Manager を設定できます。これにより、プライマリ Manager に障害が発生し、セカンダリ Manager がプライマリロールに切り替わった場合でも、ユーザーに関する情報を Manager レポートで引き続き使用できます。

ISE 統合フェールオーバー設定では、次の操作が必要です。

- プライマリ Manager とセカンダリ Manager の両方で ISE 統合を設定します。
- プライマリ Manager とセカンダリ Manager の両方に異なる ISE クライアント証明書を生成します。
- プライマリ Manager とセカンダリ Manager の両方の ISE 設定で異なるクライアント名を指定します。



Manager フェールオーバー関係を確立済みの場合は、ISE 統合設定を変更するために、セカンダリ Manager をプライマリ Manager に切り替える必要がある場合があります。

ISE 統合フェールオーバーを設定するには、次の手順を実行します。

1. 「**ISE 設定の追加**」の手順に従って、プライマリ Manager を設定します。一意の ISE クライアント証明書を生成し、一意のクライアント名を割り当てるようにしてください。
2. セカンダリ Manager に対してこれらの手順を繰り返し、一意の ISE クライアント証明書を生成し、一意のクライアント名を割り当てるようにします。

pxGrid ノードと ISE 統合オプションがプライマリ Manager のこれらのオプションと一致していることを確認します。

## 拡張 ISE の展開をサポートするための Secure Network Analytics 設定の調整

デフォルトでは、Secure Network Analytics Flow Collector が処理できる同時アクティブセッションの数は、アプライアンスで使用可能なメモリの総量によって決まります。

次の仕様を参照してください。

合計 RAM	セッションの総数
16 G ~ 128 G	524,288
128 G 以上	2,097,152

Flow Collector がデフォルトでサポートする数を超える ISE セッションを処理できるようにするには、アプライアンスに追加の設定が必要です。ホスト、ユーザ、セッション、デバイスなどの重要なオブジェクトに関する情報を保持するメモリ内データ構造のサイズを設定することになります。

アプライアンスの設定を調整する場合は、[シスコサポート](#)にお問い合わせください。

## サポートへの問い合わせ

テクニカルサポートが必要な場合は、次のいずれかを実行してください。

- 最寄りのシスコパートナーにご連絡ください。
- シスコサポートの連絡先
- Web でケースを開く場合：<http://www.cisco.com/c/en/us/support/index.html>
- 電子メールでケースを開く場合：[tac@cisco.com](mailto:tac@cisco.com)
- 電話でサポートを受ける場合：800-553-2447(米国)
- ワールドワイド サポート番号：  
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/web/tsd-cisco-worldwide-contacts.html>

## 変更履歴

マニュアルのバージョン	公開日	説明
1_0	2024 年 1 月 19 日	最初のバージョン。

---

## 著作権情報

Cisco および Cisco ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧は、以下の URL でご確認いただけます。

[https://www.cisco.com/c/ja\\_jp/about/legal/trademarks.html](https://www.cisco.com/c/ja_jp/about/legal/trademarks.html)。記載されている第三者機関の商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1721R)